

令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一人一人が授業に対して自分の思いや願いがもてるような支援をすることができた。
- ・具体物を持たせて観察させることで、児童が視点をもって観察することができた。
- ・多様な方法で表現したカードや掲示物、発表等ができるように工夫した。
- ・モルモットやザリガニの飼育を通して、命の大切さや生き物に対する愛着心を育てることができた。

(2) 課題

- ・学習活動で児童一人ひとりの気付きについて話し合う場面を意識して設ける。また、気付きを深めるための教師の声かけや問いかけの工夫が必要である。
- ・子供の日常のつぶやきや発見を取り上げ、自分が見たり、体験したりしたことの意味を考えさせる時間や話し合いを持つようにする。
- ・「できたこと」「分かったこと」「もっとやってみたいこと」を出し合うことで、児童の思いや願いを尊重した活動の展開が十分にできるようにする。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・モルモットやザリガニについて調べたり、世話をする方法を工夫したりしていた。 ・季節により生き物や、自然が変化していく様子など、生活の中で身に付けていく知識が少なく、体験が不足している様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生は1年生と、1年生は未就学児と交流することを目標に、分かりやすく伝えるための発表の仕方について考えていた。 (今年度は未定) ・地域で働く方たちに直接インタビューすることで、初めて知ったことを表現したいという気持ちをもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある店舗について自分たちで調べ学習をすすめることで、児童の学習意欲が高まった。 ・モルモットの引継ぎをすることで、生き物を身近に感じたり、責任感をもったりし、すすんでお世話していた。(今年度は未定)

3 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な植物を育て、成長の様子を自分なりに気付けるようにする。 ・自分自身や友達、それぞれのよさや可能性に気付かせるために、日常的に交流の場を設ける。 ・気付きを自覚させるために、発見したことを言葉で表現させる。 ・モルモットの世話を体験することで、生き物も人間と同じように生命をもっていることや成長していることに気が付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードや紙芝居にしたり、模造紙にまとめたりするなど、多様な方法で表現できるように支援する。 ・伝える相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫することができるようにする。 ・対象との様々な関わり方をさせることで、科学的な考え方の基盤を育てる。 ・保護者や地域と連携した活動を計画したり、地域人材を活用したりすることで、地域に愛着をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「こうしてみたい。」「もっと、こうしたい。」といった思いや願いを生かした授業展開を行う。 ・2年間を見通して、系統的な指導を行うことで、指導の効果を高める。 ・具体的な活動や体験を行うにあたり、郊外での学習活動を取り入れる。 ・児童の気付きを見取るために、友達同士で見せ合ったり対話したりする時間を設定する。